

熊本県農業コンクール大会で受賞

まちの
わだい

優賞及び九州農政局長賞(新人王部門)
犬飼忠綱・美奈子さんご夫妻(宮地)
優良賞(創意開発部門)

J Aあそ波野キャベツ部会
(部会長 阿南米夫さん 滝水)
地域貢献賞
吉岡ツタ子さん(中通)

県、農業団体、熊日主催の第46回熊本県農業コンクール大会表彰式が2月17日、熊本県庁で行われ、次の方々が登場されました。本大会は農業優良者を発掘し、農業・農村の活力ある発展に資することが目的です。受賞した皆さんは、「安全・安心」や「消費者」を意識し、安い海外農産物に対して新鮮、安心、美味しさで対抗する取り組みを展開されています。



◀ 吉岡ツタ子さん

くまもとふるさと食の名人、並びに生活研究グループ員として長年培った知恵と経験を活かし、子どもたちや消費者に農業の魅力や食文化を伝え、地域農業の発展に寄与されています。



◀ J Aあそ波野キャベツ部会
(部会長 阿南米夫さん)

高齢化や人手不足が深刻な中で、離農した人を雇って収穫と出荷の受託作業を開始するなど、現在では80haを受託するまでになり、産地化に貢献されています。



◀ 犬飼忠綱・美奈子さん

両親とともに水稲、トマト、イチゴを生産。トマトを担当する忠綱さんは県立農業高等学校でトマト栽培を学び、就農。また、地元小・中学校の先生たちの農業体験研修を受け入れるなど、農業の良さを伝える活動も続けられています。

坂梨宿場會がくまもと県民文化賞を受賞



▲受賞の報告に市役所を訪れたメンバー

坂梨宿場會のこれまでの主な活動
＜平成11年 会設立＞

史跡案内高札・水車・水場の設置。ホームページの開設。坂梨探査会・豊後街道歩く会。マップの作成。蕎麦切り隊出場。紅葉落葉樹の植樹。坂梨まちづくりワークショップの開催。先進地視察研修。毎月「さかなし宿場會瓦版」を発行。清掃活動など。

*坂梨宿場會のホームページが大変よくできています。詳しくは、ぜひ、そちらを見てください。

栄えある第16回くまもと県民文化賞・地域文化活動部門に「坂梨宿場會」(会長 赤星永幸さん)が選ばれ、その表彰式が3月24日、県庁知事室であり、潮谷県知事より、賞状とたてが贈られました。この表彰は、地域において地道な文化活動に取り組み、伝統文化の保存継承等に功績があると認められたものに贈られます。

受賞の感想を赤星会長は「坂梨はかつて豊後街道の中継地として、また、宿場まち、関所があったまちとして栄えてきた。当時の面影を保存、再現する活動に地域の皆さんが協力し今の段階まで来た。よって今回の賞は地域全体にいただいたもの。今後も坂梨のよさを多くの人に知ってもらえるようがんばりたい」と述べられました。

なお、この表彰は、前に中江岩戸神楽保存会(平成8年)、横堀神楽保存会(平成10年)が受賞されており、阿蘇市は県内でも伝統文化継承活動に優れていると言えます。



▲坂梨宿場通りの冬景色

台風で倒れた「産神社の杉」の2世が里帰り



独立行政法人「林木育種センター九州育種場」が実施する、巨樹・名木等の後継樹の増殖サービス「林木遺伝子銀行110番」により、平成16年9月の台風18号で倒木した狩尾3区の「産神社の杉」が増殖され、後継樹として元の場所に戻りました。

「産神社の杉」は樹齢300年、幹周り約4メートル、樹高約35メートルで、すぐ横にも同じ大きさの大杉があり、産神社の2本の大杉として知られていました。

今回、九州育種場が、この杉が倒れたことを新聞で見ても、神社の氏子総代に後継樹(クローン苗木)増殖を提案。大杉の2世が育てられるという思わぬ話に、地域ではこの日を待ちわびていました。地域の人たちが見守る中、九州育種場から「冬季の増殖は難しいがうまく育ててくれた」と区長に苗木が渡されると、皆でていねいに植樹しました。

なお、阿蘇市で同じ増殖サービスを受けたのは、国造神社の手野の大杉に続いて2例目です。

「阿蘇市青少年健全育成市民会議」を設立

～広く市民の総意を結集して～

地域・各種市民団体・企業組合・ボランティア協力者・学校・行政等が連携活動し、市民全体で子どもの健全育成、非行防止を図ろうという「阿蘇市青少年健全育成市民会議」が、3月11日設立され、新たに市民会議という誰もが垣根なく協力できるかたちでの取り組みがスタートしました。

阿蘇いこいの村で行われた設立総会には約200人が出席し、県内で少年非行が増加している現状や、不登校・いじめなどの問題をもとに今後の取り組みについて審議され、また、専門家による講演も行われました。

なお、会長にはホースセラピーで活動中の梅木康裕さんが、副会長に石田代志子さん高宮正行さんが就任。事務局は青少年育成アドバイザーの松本哲さんと松本博子さんに決まりました。

今後、会では、子どもたちを幅広い視野で見守ることを柱に取り組みを行います。市民の皆さまも、趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。



水・河川の環境問題を認識し、浄化へ



阿蘇地域の水資源をはじめ自然環境の保護育成活動に取り組むNPO法人阿蘇環境計画は、3月8日、一の宮保健センターで、勉強会を開き、いかに市民が市民全体の問題として、河川浄化に取り組んでいくかを考えました。今回は、①水流が少なくゴミが目立つ西岳川への対策や、浄化装置を沈めた花原川の研究発表、②水に関する活動を展開中の桑島元博さん(一の宮門前町会の代表。宮地の中心地で水基の設置や観光客が水に触れる活動など)、佐藤盛安さん(内牧花原川を守る会代表。河川の美化活動、植栽、河川ウォッチング、県との水質検査など)の事例発表 ③NPO法人阿蘇環境計画理事長である熊本県立大学教授の篠原亮太先生の講演が行われ、参加者は身近な環境汚染問題に驚くと同時に意識改革へとつながりました。

熊本県野菜経営コンクールで受賞

まちの
わだい

熊本県野菜経営コンクール会長賞・優秀賞
室恒和さん・幸代さんご夫妻(宮地)
野菜園芸功労者表彰
江藤勝喜さん(黒川)
野菜園芸功労者感謝状贈呈
宮川清喜さん(宮地)



県野菜振興協会主催の第47回熊本県野菜振興大会が2月16日、熊本テルサ(熊本市)で開催され、野菜経営コンクールで次の方々を受賞されました。



◀ 江藤勝喜さん(黒川)

昭和58年より春メロン、夏秋トマトを栽培され、品種比較試験等に積極的に取り組まれています。また、新技術の導入や地域生産農家への技術指導を行い生産技術の向上に貢献されています。



◀ 室恒和・幸代さん
ご夫妻(宮地)

「足腰の強い農業」を基本に、ほ場の集約化、作業の効率化、強化型ハウスの導入など気象災害に左右されない生産基盤を確立し、高生産性農業を展開されています。また、生産面や栽培面での工夫もされ、さらに中部トマト部会を通じた消費者との交流会等にも積極的に参加されています。

荒れた河川敷を美しい名所へ



地域づくりに取り組む、尾ヶ石開発隊(代表：五嶋義行さん他12人)は、3月2日、阿蘇市景観整備事業をうけ、跡ヶ瀬地区の河川敷2.5ヘクタールに、桜ソメイヨシノ25本を植樹しました。この河川敷周辺は、田園の風景、山々の景観がいいにもかかわらず荒れ、不法投棄の被害も多くなっていました。そこで隊の皆さんや地域の人たちが立ち上がり、2年前からごみ拾い草刈りなどを行い、散歩のできる河川敷へと変えてこられました。植樹祭では、尾ヶ石開発隊や地域の人たちはじめ、市長もいっしょに植え込み作業を手伝い、今後、ますます素晴らしい場所へしていこうと皆で気持ちを一つにされました。360度景観のいいところです、ぜひ、皆さんも訪れてみてください。

男女共同参画社会をめざして

3月14日、一の宮就業改善センターで女性団体連絡協議会による「男女共同参画セミナー」が開催されました。オープニングに、同会委員による詩吟、同会役員による大正琴の演奏、一の宮商工会女性部によるフラダンスが披露され、その後、古賀倫嗣氏(熊本大学教育学部教授)の講演が行われました。古賀氏は、男女共同参画の沿革、基本理念、そして市町村における男女共同参画行政について話し、特に地域・職場・学校における男女共同参画の啓発事業、女性ネットワーク立ち上げ等の支援事業、DV・セクハラに対応する相談事業、男女共同参画推進条例づくりのような政策法務が、今後、市町村において取り組むべき課題であると講演しました。



▲オープニングで詩吟を披露する委員の皆さん

人に優しい阿蘇づくりシンポジウムが開催されました



阿蘇広域観光と地域づくり連絡協議会(会長 小笠原徹朗さん)主催の「くまもとUDと観光を考えるシンポジウム」が、3月18日、阿蘇青年の家で開催されました。

これは、阿蘇が県内を代表する観光地として、訪れた人たちに気持ちよく滞在してもらえるよう考え、安心・安全な阿蘇をうち出していこうというもので、潮谷熊本県知事が基調講演を行い「観光とは、その地域の文化、伝統、くらしや生き方を見ること。外国人や高齢者、誰にでもあらゆる心づかいで新たな阿蘇市をつくってほしい」と話されました、その後のパネルディスカッションでは、今後の改善点などについて熱論が続きました。

桜につく病気を駆除

内牧の桜の名所で知られる黒川堤防沿いの桜に、テングス病が見られるということで、早速、内牧の区長・役員さんたちが、駆除作業をされ、おかげで今後数年、また、美しい桜の花が見られるようになりました。

テングス病は、阿蘇市一带に見られることから、阿蘇ほたるの会(代表 湯浅陸雄さん)では、まず旧阿蘇町の基礎調査をこの開花時期に行い、結果を県・市に報告されます。名木や集団樹林のテングス病の病状等を正確に把握し今後の駆除対策の基本にしたい考えです。



中通古墳郡に彼岸花を植歳

中通ホテルを守る会(会長 岩本弘史さん)では、昨年から、中通古墳群やその周辺の道路沿いに彼岸花を植栽する活動を行っています。3月25日は、協力団体の皆さんと、昨年と同数の彼岸花3,000株を植えられました。秋には美しい花が、県指定の史跡、中通古墳群を彩ることとでしょう。

協力団体：中通公民館、区長会、小学校PTA、老人会、一の宮町地域づくり団体協議会、西下原青年会、一の宮町土地改良区

仲町通りで音楽番組の収録

かなぶんやさん(司会)やスターダスト・レビュー、進藤久明さん(ミュージシャン)が出演したRKK熊本放送局のテレビ番組「根本要の音楽山盛」の収録が、3月27日夜、一の宮の仲町通り、緒方屋(通りの休憩所)でありました。今回、RKKでは、元気な地域での収録を希望され、門前町わきゃもん会の取り組みに白羽の矢が…。

対談では、会メンバーの宮本博史さんが出演し、会の活動や、阿蘇市のよさについて語ってくれました。放送は4月17日と24日(25:20~)の2日間。

坊中の軽木欣弥さんもギター&歌で出演しています。ぜひ、ご覧ください！



みどり
「水土里ネットの森」がつけられます



水土里ネットとは土地改良区の愛称。このたび、上下流域水土里ネット(阿蘇管内、菊池管内、熊本市管内)を中心に「黒川白川河川流域水土里ネット連携協議会」(会長水土里ネット一の宮理事長 吉田満雄)がで、昔、高森への主要道路があった一の宮町日の尾原野に「水源涵養の森」をつくることになりました。この植樹事業は5年間継続して行われ、将来5ヘクタールの森が完成する予定です。遊歩道や東屋設置の計画もあるそうです。3月11日、雄大な根子岳を目の前に、協議会のメンバーらが集い、最初の植樹祭が催され、

地元国会議員、県議会議員などの来賓あいさつ、感謝状の贈呈、看板除幕式などを行い、阿蘇の水を美しくすることに一丸となりました。その後メンバー190人は、スコップを手にし、紅葉やケヤキ、山桜など広葉樹2千本の苗を植え汗を流されました。
なお、*苗代には、「県の緑の税」からの補助金100万円が使われています。

注目をひく「黄色い横断旗」を寄付

春の交通安全運動を前に、阿蘇市交通安全協会宮地支部(代表：榊 昭市さん)は、宮地小学校に、児童が横断歩道を渡るときに使う「黄色い横断旗」100本、指導旗10本を寄付しました。宮地支部では日ごろから、一人の交通事故被害者も出さないよう児童たちを見守っておられます。旗は、以前、宮地支部が設置した土台に入れて使用します。



「佐藤スマ子&なかま展」・「おひなさま展」



「佐藤スマ子&なかま展」が3月1日から7日まで宮地の旅館で、また、時期を同じく「みやび+1のおひなさま展」が仲町通りの空き店舗を利用し行われ、期間中、まち歩きの観光客に喜ばれました。
「佐藤スマ子&なかま展」は生涯学習パッチワーク講座受講生と紙ねんど・手作り小物教室生でつくる「こぶしの会」(神保京子さん他42人)と講師の佐藤スマ子さんが今回始めて開催したもので、作品約300点が展示されました。会場内では、訪れた人たちにお茶のおもてなし、作品の説明を行い、「ゆっくり作品を楽しむことができた。」「阿蘇に来ていい思い出ができました。」と好評でした。



また、みやび+1プラスワン(代表：森下幸美さん)が、地元商店街や会員から集めたひな人形を展示した「おひなさま展」では、華やかな桃の節句の品々が並べられ、和やかな空間に、観光客らはつい足をとめ、店内を楽しみました。今年で7回目の開催で、今では、春の恒例の立ち寄りスポットとなっています。

阿蘇市生活研究グループの会が設立されました。

▶ 会員の交流を兼ね、総会後行われた料理講習の
もよう。講師は沖縄料理で著名な佐藤洋子氏。



これまで旧3町村形態で活動していた生活研究グループが、設立準備会を経て一つに結成され、3月3日、農村環境改善センターで、設立総会が行われました。

生活研究グループとは、農業に携わる女性たちが、豊かで活力ある農業・農村の振興を目指し、グループの活動を通じて、培った知識・技術を生かし、食の安全、農業の大切さを次世代に伝える取り組みを行う団体です。

総会では、市長、県農業普及指導課木庭課長のあいさつの後、議事が進められ、会長に岩瀬葉津子さん(波野)の就任が決まりました。岩瀬会長は「会員の情報交換を活発に行い、阿蘇の個性あふれる活動を

皆で楽しみながら出来るよう努めていきたい」と抱負を語られました。114人の会員でスタートを切った会では、今後も意欲的に料理の伝承活動・生産物の開発・イベントなどへの出店参加・直売所への出荷などを展開されます。

灯りでまちを魅力的に

～楽しみながらまちづくり～

一の宮町商工会女性部、仲町通り商店街、それぞれが個性ある灯籠をつくり、夜のまちを盛り上げています。

一の宮町商工会女性部(井佳子さん他54名)は、マイネッター(石粉ねんど)の灯籠をつくり、阿蘇神社の夜桜ライトアップの時に並べ、灯籠の内側に塗られた色とりどりの灯りで観客の目を楽しませました。

井会長は「作った灯籠は、今後もイベントを行うごとに展示します。まちづくりは皆で行うことが大切。今回の灯籠づくりも、他の女性団体、老人会、子供会などにも呼びかけ、輪を広げていきたい。」と述べられました。

また、仲町通りの皆さんは阿蘇神社の火振り神事にあわせ、竹にいろんな切り目を入れたおしゃれな灯籠を飾り、粋な通りを演出。若者たちも携帯で写真を撮るほどの人気ぶりでした。



事故の多い交差点に 注意線が引かれました。 ドライバーは注意を！



▲注意線が引かれた小倉の交差点

交通安全協会山田支部(支部長 宮崎伊久男さん)では様々な観点から児童通学路の安全確保に取り組んでいます。最近の取り組みをお知らせします。ここ数年、小倉の農面道路で自動車の出会いがしらの衝突事故が数件発生し、児童の安全確保が急務とされてきた通学路(交差点)がありました。支部では、これまで通学時間に合わせた交通指導、通学時間帯の交通量調査などを行ってきませんが、人的取り組みには時間等制限があり、「安全な通学路を確保するためにドライバーの視覚に訴えるにはどのような方法があるか」市役所・阿蘇警察署と協議した結果、今回の「通学路」看板設置・路面への注意線(ドット線)引きへと繋がりました。

ドライバーの皆さんは、交通ルールを守り、ゆとりある運転を心掛けましょう。そうした意識を持つことで今回の設置が十分に意味を持ち、事故抑止に繋がるのではないのでしょうか。

月/日	行事名	その他・具体的な内容
4/22	花や草原の ^{かんさつ} 観察 (幾千年の営みで出来た草原の景観を見に行く活動)	*参加希望の方は、4月20日までに22-8181にお申し込みください。(山にふさわしい服装で午前9時に、おもしろ館前に集合して下さい)
5/27	昔の遊び(手まりなど)	まりつき歌と手まりつきの遊び
6/24	昔のお話	阿蘇の民話と伝説・手品(簡単な仕掛けを作ってみよう)
7/22	川のことを知る	魚釣りの道具づくり 現場での釣り体験
8/26	^{せんこうやま} 線香山遊び	去年の経験を生かして
9/23	竹とんぼ作り	スーパー竹とんぼを作ろう (高く上に上がるもの・遠くへ飛ぶものなどの種類がある)
10/28	^{つなひ} 綱引き	十五夜の綱引き(子ども綱引きをしてみよう)大人の参加あり
11/25	^{かみひこうき} 紙飛行機・凧づくり	紙飛行機で遊ぼう(はさみ持参・必ず布や厚紙に包んで危険防止し記名する)
12/16	^{たこあ} 凧揚げ大会	11月に作った凧で遊ぼう。審査による受賞あり。参加賞も…。
1/27	昔の遊び	しろ・くろ遊び革細工など
2/24	お話会	お話の練習をして発表会をする。昔話・童話・体験談



▲写真は、3月25日開催の「方言遊び、折り紙遊び」のもよう

(株)まちづくり阿蘇一の宮の企画で、昨年オープンした「あそ伝承文化村ふるさとおもしろ館」(場所：阿蘇神社前のうなり茶屋2階)では、この一年間、たくさんの昔懐かしい遊びがくり広げられました。これも、文化協会の皆さんが一生懸命、伝承活動に意欲をもやし、毎月、子どもたちのために楽しい催しをしてくださったおかげです。

今年も、左表のとおり、昔遊びを計画されています。大人の方もぜひ、ご参加ください。なお、「ふるさとおもしろ館」は、常時開放しています。覗いてみると、寺小屋風で昔のグッズがたくさん展示されていますよ。

問い合わせ先
一の宮町インフォメーションセンター
Tel: 22 - 8181

気持ちいい まち歩きスポット

内牧温泉に立ち寄り「足湯」が完成

阿蘇温泉観光旅館協同組合(理事長：稲吉淳一)が設置した和風の足湯が、とても癒されると大変評判になっています。場所は、阿蘇郵便局前の旅館蘇山郷の玄関脇で、蘇山郷の良質の温泉が使われています。丸太をそのまま一本使った足湯の設置は組合が入湯税からなる阿蘇市鉱泉源施設管理運営助成金を利用し行ったもので、今回、足湯のほか、内牧4区商店街に紅葉などの雑木の植栽も行いました。

組合では「設置は観光客や買い物客をもてなす取り組みの一環。商店街の雰囲気や皆の意識がさらに向上することを期待している」と、現在は内牧中心市街地の活性に重点を置いて活動中です。

市内の立ち寄りの足湯は、問端内科(内牧)のグループホームと、夢の湯に続いて3つ目。どこも気軽に利用できます、ぜひ、ゆっくり足湯めぐりをお楽しみください。



先月号の訂正▶本誌2月号15ページに掲載しました、「阿蘇の“未知”道を考える女性の会」について、発起人団体名に阿蘇市地域婦人会がもれておりました、訂正しお詫び致します。